

製品名: GluR4 (リン酸化 Ser862) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04737**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	GRIA4
別名	GRIA4; GLUR4; Glutamate receptor 4; GluR-4; GluR4; AMPA-selective glutamate receptor 4; GluR-D; Glutamate receptor ionotropic; AMPA 4; GluA4
遺伝子 ID	2893.0
SwissProt ID	P48058
免疫原	抗血清は、Ser862 のリン酸化部位周辺のヒト GluR4 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 828-877

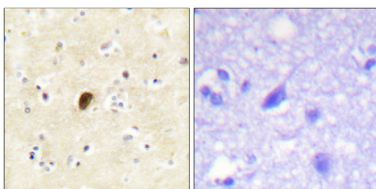
背景

グルタミン酸受容体は、哺乳類の脳において主要な興奮性神経伝達物質受容体であり、様々な正常な神経生理学的過程において活性化されます。これらの受容体は、複数のサブユニットからなるヘテロ多量体タンパク質複合体であり、リガンド依存性イオンチャネルを形成するように配置されています。グルタミン酸受容体の分類は、異なる薬理的作動薬による活性化に基づいて行われます。この遺伝子によってコードされるサブユニットは、AMPA (α -アミノ-3-ヒドロキシ-5-メチル-4-イソキサゾールプロピオネート) 感受性グルタミン酸受容体ファミリーに属し、RNA 編集 (AGA→GGA; R→G) を受けます。この遺伝子の選択的スプライシングにより、シグナル伝達特性が異なる可能性のある異なるアイソフォームをコードする転写産物バリエーションが生成されます。この遺伝子のいくつかのハプロタイプは、統合失調症との正の関連を示しています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: イオンチャネル型グルタミン酸受容体。L-グルタミン酸は、中枢神経系の多くのシナプスにおいて興奮性神経伝達物質として作用する。興奮性神経伝達物質 L-グルタミン酸の結合は、構造変化を引き起こし、陽イオンチャネルの開口につながり、化学信号を電気インパルスに変換する。その後、受容体は急速に脱感作し、結合した作動薬の存在を特徴とする一時的な不活性状態に入る。、その他: グルタミン酸のシナプス後作用は、選択的作動薬に応じて命名された様々な受容体によって媒介される。この受容体は、AMPA (キスカル酸) >グルタミン酸>カイニン酸の順に結合する。、PTM: パルミトイル化。グルタミン酸刺激により脱パルミトイル化される。Cys-611 のパルミトイル化は、ゴルジ体への滞留と細胞表面発現の低下につながる。対照的に、Cys-837 のパルミトイル化は細胞表面発現には影響を与えないが、刺激依存性エンドサイトーシスを制御する。、類似性: グルタミン酸依存性イオンチャネル (TC 1.A.10) ファミリーに属する。、サブユニット: 孔形成型グルタミン酸受容体サブユニットのホモ四量体またはヘテロ四量体。四量体は二量体の二量体化によって形成されることがある。C末端を介して EPB41L1 と相互作用する。、

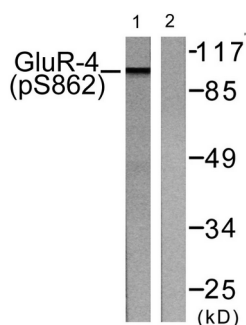
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



GluR4 (リン酸化 Ser862) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



フォルスコリン 40nM 30 μ L 処理した HepG2 細胞ライセートの GluR4 (リン酸化 Ser862) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。